令和3年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	92	学校名	茨城県立坂東清風高等学校					課程	全日制		学校長名	國府田 一之				
教頭名	綿引 英治										事務（室）長名	木村 友紀				
教職員数	教諭	30	養護教諭	0	常勤講師	6	非常勤講師	4	実習教諭・実習講師・実習助手	2	事務職員	0	技術職員等	2	計	46
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	総合学科	56	61	67	59					123	120	7				
	農業に関する学科	16	6							16	6	1				
	園芸技術科			9	2					9	2	1				
農業工学科			6	3					6	3	1					

2 目指す学校像

- (1) 普通教育・専門教育を通して、確かな学力を育み、未来を創造する力を持った人材を育成する。
(2) 個に応じた学習を通し、高い専門性と実践力を培い、自立する力を備えた人材を育成する。
(3) 地域との連携・交流を通して、地域愛を育み、協働する力を養い、郷土の発展に貢献できる人材を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	与えられた課題には取り組むが、自ら進んで学習しようとする姿勢が不足している。個に応じた指導を通して基礎学力の定着を図る必要がある。	生徒の主体的活動を促すために授業の改善を進める必要がある。そのために授業改善についての研修や情報交換を密にしていく必要がある。
進路指導	大学・短大・専門学校・就職等、生徒の進路希望は多様化している。望ましい進路実現を育成するため、個に応じた積極的な進路指導とキャリア教育の充実が必要である。	個人面談やガイダンスを通じ、進路選択に対する意識付けを早期に行う。個々の進路に応じた課外や模試、模擬面接等を積極的に実施する。体験的活動を通し、職業理解の充実を図る工夫を行う。
生徒指導	明るく素直で、挨拶や服装・頭髪等もきちんとした生徒が多い反面、周囲に流されやすい生徒も見られるので、自律的な行動がとれるように指導することが必要である。	自律的行動が身に付くように、教職員が共通理解のもと粘り強く丁寧に指導を行う。
特別活動	学校行事を通じて帰属意識や自己肯定感の育成を図っている。部活動加入者が減少しているため、部活動の活性化が必要である。	生徒が主体的に取り組める学校行事の企画・運営を行う。部活動の定着化を図り、生徒自らが意欲的に活動できる環境の整備を図る。
働き方改革	働き方改革に対する教職員の意識は向上しているが、坂東清風高校が開校し、日々の教育活動に加え、学科改編による作業量の増加や岩井高校、坂東総合高校との3校併存に伴う連絡・調整等の増加により、教職員の業務量は増えている。	教科・学年・校務部等で業務内容や情報の共有や精選を図り、業務の効率化を進める。

4 中期的目標

- (1) 普通教育・専門教育を通して、確かな学力を育み、未来を創造する力を持った人材を育成する。
 (2) 個に応じた学習を通し、高い専門性と実践力を培い、自立する力を備えた人材を育成する。
 (3) 地域との連携・交流を通して、地域愛を育み、協働する力を養い、郷土の発展に貢献できる人材を育成する。
 (4) 業務や情報の共有や精選を図り、働き方改革を推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
ア 個に応じた学習指導を通じた基礎学力の向上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ② 観点別学習状況の評価の浸透を図る。 ③ ICTを活用し、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 ④ 各種検定試験の合格者を増加させる。 ⑤ 相互授業参観や中学校の授業参観等の取り組みを通して、学習指導の工夫・改善を図る。
イ 個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実	⑥ 職業観・労働観を形成し、自己目標を明確化させるため、個別面談の充実を図る。 ⑦ キャリアカウンセリングや地域と連携したインターンシップ等の体験的活動により、生徒の進路意識を高める。 ⑧ 基礎力の定着や学習能力の向上を図るため、課外体制の充実に努める。 ⑨ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。 ⑩ 生徒・保護者への情報提供や参加型の行事の充実を図り、進路意識を高める。
ウ 人間性・社会性を養う教育活動の展開	⑪ 学校生活を通し、自らを律するとともに、他者との協調性を培う。 ⑫ 学校行事や部活動など様々な場面で、自己有用感や自己肯定感を高め、母校愛を育成する。 ⑬ 各種講演会や面談を通し、生徒の自己理解・自己指導能力を育成し、事故等の未然防止に努める。 ⑭ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する意識を育てる。
エ 特別活動・広報活動の活性化	⑮ 生徒が主体的・積極的に参加できる学校行事を企画・運営する。 ⑯ 各部活動の加入率を高める。 ⑰ ホームページや学校説明会を充実させ、本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。 ⑱ 定期的に中学校訪問を行い、中学校との連携を深め、志願者の増加に努める。 ⑲ キャリアパスポートを活用し、生徒の自己理解の深化に努める。
オ 働き方改革の推進	⑳ 業務内容の整理や情報の共有、OA機器の活用などを通して、校務の効率化に努める。 ㉑ 「きんむくん」の活用などを通し、職員一人一人の働き方についての意識を高め、健康と安全を確保する。 ㉒ 部活動において週当たり1日以上以上の休養日を設けるなど、職員の時間外勤務の縮減に努める。